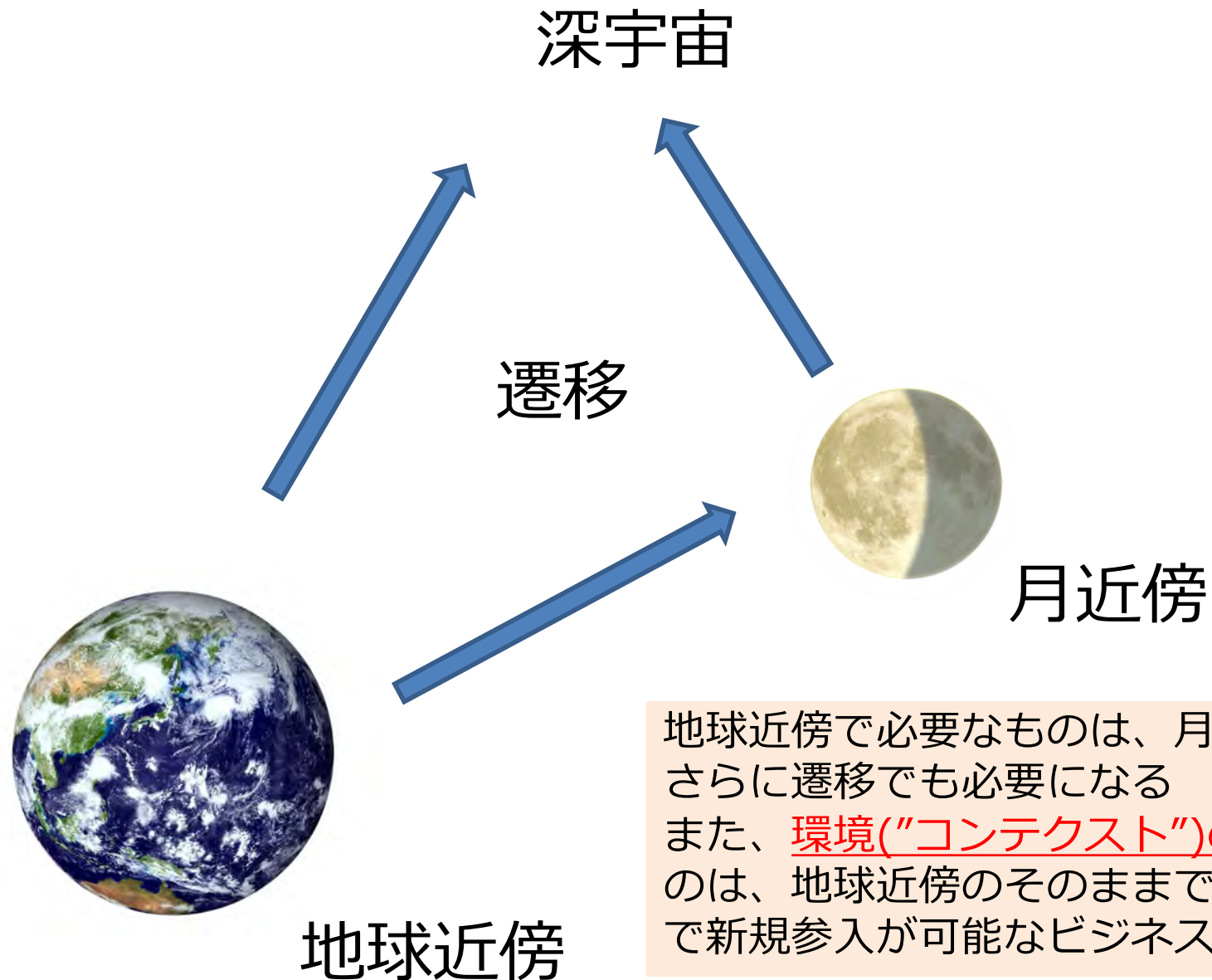
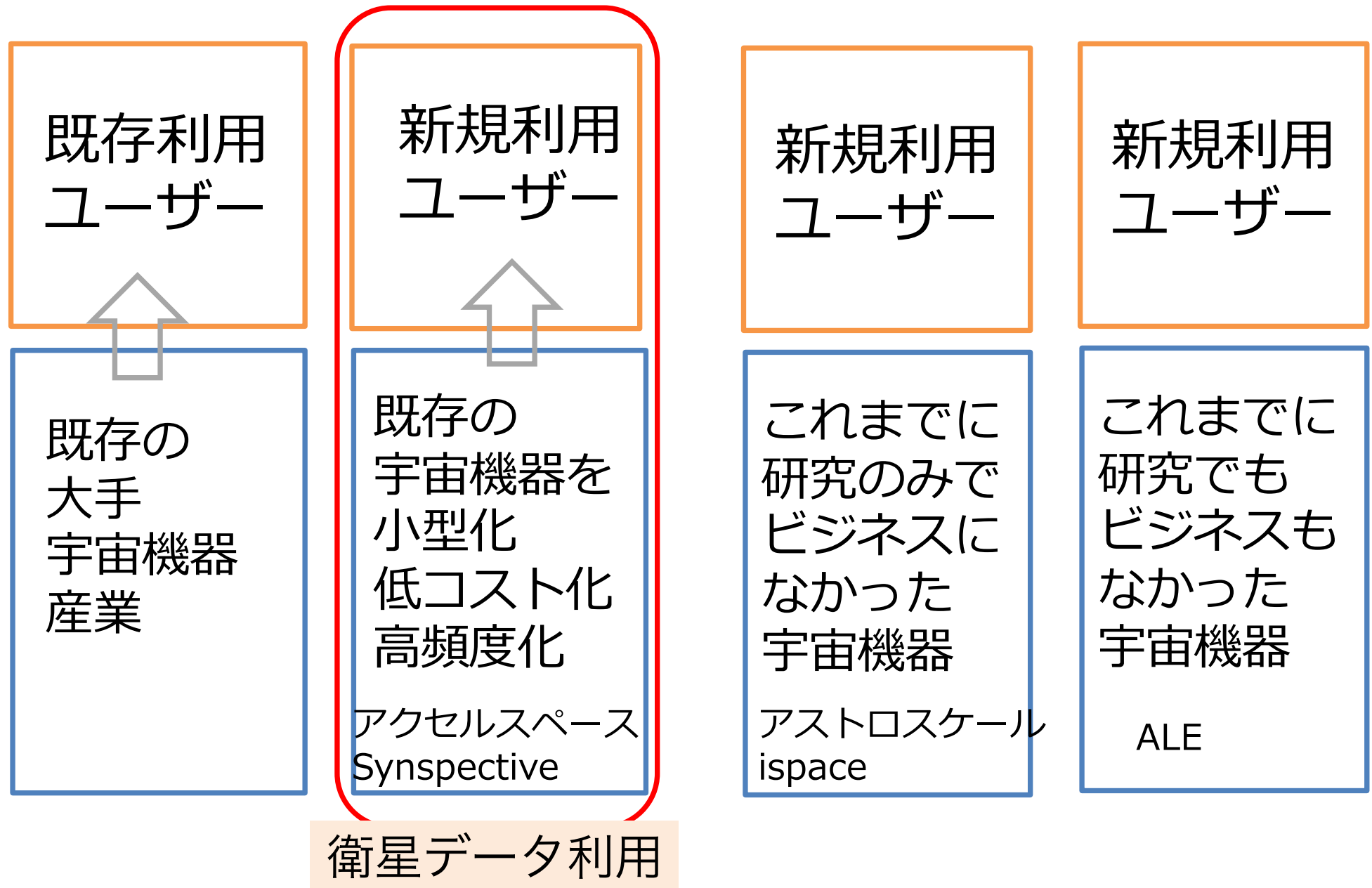


新宇宙ビジネス検討のためのフレームワーク2



新宇宙ビジネス検討のためのフレームワーク3



将来を考えると

- 航空宇宙学会「宇宙ビジョン2050」6章「宇宙ビジネスのロードマップ」2040年における月面人数
 - United Launch Alliances “Cis-lunar 1000”では月面および月周回軌道に1000人
 - ispaceの“Moon Valley 2040”構想、商業月利用研究会、フロンティアビジネス研究会等では月面に1000人
 - 内閣府委託「月の開発利用に係る技術動向調査」（有人宇宙システム）では年間延べ100人

宇宙空間に人が滞在すると、人が生活する上で必要となるものはすべて必要となる。しかし20年先のため、多くの企業が参入できていない。将来のブルーオーシャンは確実にあるので、早くスタートすることが必要。

オービタルインサイト



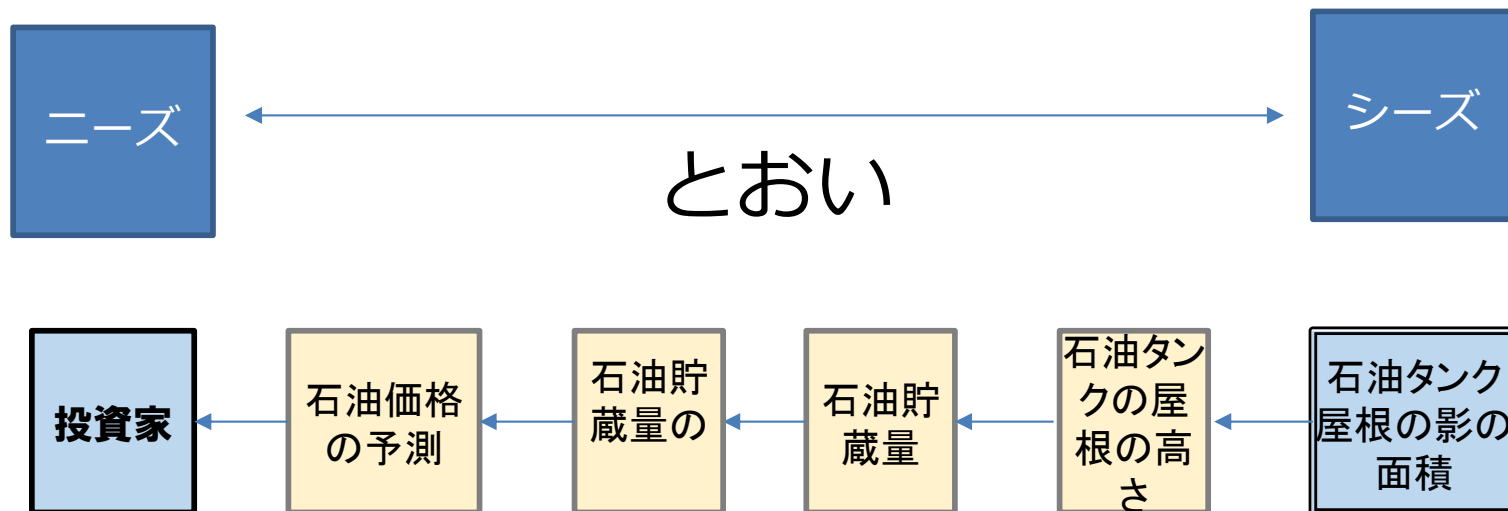
宇宙から観測されるあらゆるものが
データ化されて活用されはじめた

なぜいい衛星データ利用ビジネスが なかなか生まれてこないのか？

優れた衛星データ利用事例といわれているもの27件をピックアップして分析



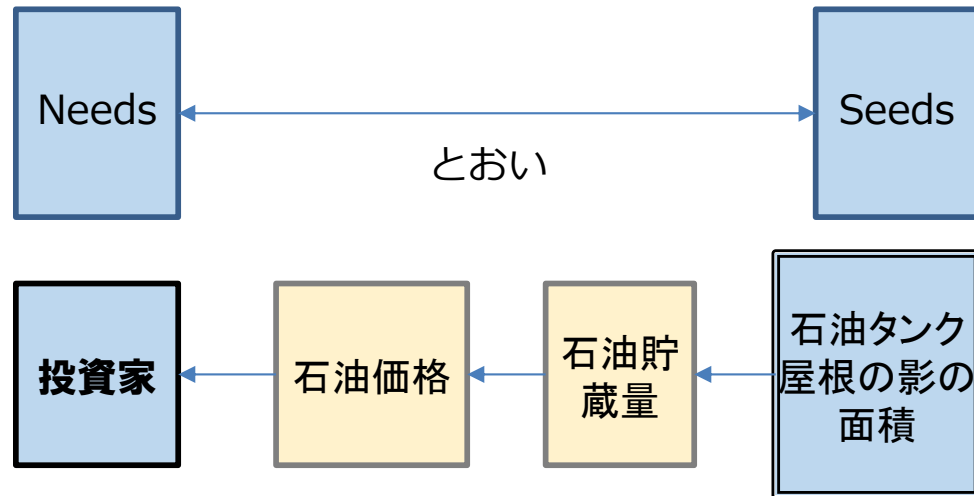
- 衛星画像から見えることと、解決する課題が遠いため、簡単に結びつかない
- 可視化をして、結び付けることを支援



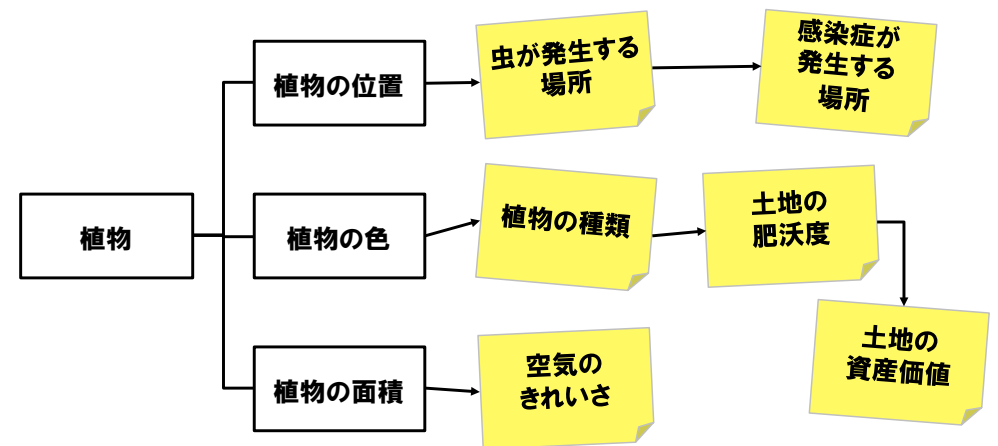
衛星データ利用の促進

衛星データ利用を促進するための手法

なぜ衛星データを利用した
課題解決/新ビジネスは難しいのか？



情報の因果関係を活用・
可視化により創出



- 衛星から見えることと、解決する課題が遠いため、簡単に結びつかない
- 可視化をして、結び付けることを支援する手法を活用したワークショップを通じて、衛星データを利用した課題解決・新ビジネス創出を推進

Design the future!

www.sdm.keio.ac.jp

日吉駅前 協生館